

自分の思いを表し、人との関わりを楽しむ生徒をめざして

石 本 晴 繁

はじめに

K男は、小学校の障害児学級から本校中学部に入学し、5年が過ぎようとしている。高等部1年の時点で兵庫県温泉町から遠距離を汽車で自力通学ができるようになり、通学に対する自信が次第にできている。

またK男は、はっきりした発音ができにくかったり、自分の思いを伝えることが苦手だったりするため、進んで他の人に関わろうとしなかった。しかし、少しずつ教師や友だちとの関わりが多くなるにつれ、自分からやったことを知ってもらおうと話しかけたり、冗談を言ったりする場面が見られるようになってきた。自分の思いを伝えられることは、人との関わりを広げ、将来の人間関係を豊かにすることにつながる。自我の誕生の段階の生徒であるK男が、以前より少しずつ人との関わりが持てるようになり、生活を楽しむようになっていった経過を述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和54年12月15日生まれ 17歳2か月 高等部2年 男子
- ・小学校（障害児学級）より平成4年度本校中学部に入学、現在に至る。
- ・両親、兄、妹の5人家族。家族の本人に対する教育的関心は高く、本生徒を中心にすえた生活をしている。家族で地区の行事にもK男と一緒に積極的に参加するなど、周りの人との交流を大切にしている。

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査 WISC-R IQ 40以下
田中ビネー式 MA 2歳1か月
- ・S-M社会生活能力検査 SA 3歳0か月

(3) 行動特性

- ・慣れた人には進んで関わろうとするが、慣れない人には関わりが持ちにくい。
- ・相手を和ませるほのぼのとした話しかけをしてくる。
- ・二語文程度の短い言葉で意思表示をするが、発声がやや不明瞭なため伝わりにくい。
- ・ゲームやカラオケなどを好み、みんなと一緒に楽しむことができる。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

少しずつ行動半径を広げ、人との関わりを自ら求めようとしつつあるK男に、友だちとの関わりを広げ日々の生活を楽しませることをめざして次のような指導仮説を設定した。

K男が人との関わりを持ちにくいのは、コミュニケーションの力が弱く、ともに活動す

る喜びを十分味わう経験が少ないことに起因するのではないか。そこで、進んで友だちと関われるような場を繰り返して作ることで、人と関わろうとする意欲が高まり、さらにコミュニケーションの力もついてくるのではないか。

(2) 指導方針

- ・教師や友だちが積極的にK男と関わり、その楽しさを味わえるようにする。
- ・K男の発言に耳を傾け、何でも言える雰囲気づくりに努める。
- ・いくつかの選択肢のなかから、自己選択をして活動をやり遂げた喜びを味わわせる。

(3) 具体的な手だて

- ・K男の好きな学習活動をできるだけたくさん設定する。
- ・K男の会話の力を伸ばすため、発表の機会を多く設ける。
- ・机の配置、グループ編成などを配慮し、友だちのなかで表現しやすい場を作ったり、休憩、掃除、給食などで友だちと関わりやすい場を意図的に設定したりしていく。
- ・写真カードを使って家族とのコミュニケーションの素材づくりをする。

3 指導の実際

(1) ホームルーム活動（ゲーム大会をとおして）

ホームルーム活動は、学級委員がクラスみんなの意見を取りまとめて計画し、毎月1度実施してきている。1学期には、カラオケ大会、ゲーム大会、水泳大会を、2学期にはゲーム大会、野球大会、焼きいもを食べる会などを行ってきた。

友だちと一緒に会を計画して、楽しんで参加することは友だちとふれあうよい場である。また、会のなかで賞状係など自分ができる役割を持ち、その役割を果たすことは、K男の自信につながる。



カラオケを楽しんでいるK男

ゲーム大会でのK男の様子は、次に記すとおりである。

	学習活動	支援の工夫	K男の様子
大会の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム大会の計画をたてる。 ○ゲームを何にするか話し合い、決める。 ○必要な係を考え、分担を決める。 ○係の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちが提案したゲームのなかで、したいゲームを教師と相談する。ゲームの名前を教師が言って、そのなかから選び、自分の選んだゲームを発表できるようにする。 ・友だちが提案した係のなかで、したい係を教師と相談する。係の名前を教師が言ってそのなかで選ぶ。やりたい係の所に名前カードを友だちと一緒に貼らせたい。 ・教師と一緒に賞状を作る。文字は、教師が書き、なぞり書きができるようにしたり、好きな絵をカット集から選びコピーしたものを糊で貼ったりし、満足感を持てるようにする。何度か指導者の後について読む練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツバスケットをする事を教師と相談して決めた。ゲームの内容や順番の話し合いに手を挙げる事で参加した。「フルーツバスケットがいいです」とやりたいゲームを発表することができた。 ・教師が「賞状係しようか」と提案すると、K男もやる気を持ったようで「やります」と言いながら賞状を読むまねをしていた。準備では、教師と一緒に賞状を作っていた。なぞり書きは、教師が手を添えて書いたり、自由に丸を描いたりした。読む練習では、「表彰状・・・」等と、元気な声で読み上げていた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム大会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで参加できるように、教師も仲間として参加し、盛り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツバスケットでは、友だちに声をかけられて動いていたが、席を

ゲーム大会 9月の実践	○フルーツバスケットをする。	・りんご、みかん、バナナのバッチを作っておき胸につけ、自分の菓物グループがよく分かるようにする。何度か練習してやり方を確認する。	かわるのを楽しんでいた。鬼になったときも、はりきって果物の名前を発表できた。
	○しりとりゲームをする。	・しりとりの言葉が分からないときは教師や友だちが頭の文字を教えたり、振りをしてヒントを与えたりする。	・しりとりでは、言葉が思い浮かばず教師が物の振りをしたり友だちの応援で答えることができた。例えば、「い」のとき、犬の振りをすると「いぬ」と答えた。
	○ダンスをする。	・教師が声かけをしたり、大げさに動いたりしながら一緒に踊る。	・躊躇していたが指導者が一緒に踊ると喜んで踊れた。
	○成績発表する。	・教師が出だしの言葉を言い、あとは、本人が言うのを待つ。	・賞状は、初めは文を指導者の後について言い、自分なりにつけ加えができた。本人は、照れくさそうであったが、感じを込めて発表していた。
	○感想を発表する。	・できるだけ自分の言葉で言えるように、言うまで待つ。教師はK男の言ったことに共感したい。	

K男が友だちとさまざまな活動をするためには、教師がアドバイスを与えたり、一緒にやったりという支援が必要である。自己決定の時に名前カードを自分で貼る、ゲームの時にバッチをつける、教師や友だちが振りをしてヒントを出す、など具体的な支援を行うことで積極的に楽しんで参加できるようになってきた。また、自分なりの役割を持ち、果たすことで学級の一員としての意識が育ってきた。

(2) 生活一般（買い物、調理実習をとおして）

K男は、ガスを使ったり包丁を使ったりというような危険を伴う調理は難しいが、自分でできる物を買って、作って、食べるという簡単な調理に関する学習を楽しんで取り組む。そこで、こうした調理の学習をとおして、主体的に学習に取り組む楽しさを味わわせたいと考えている。将来、ごく簡単な買い物や調理を自分で楽しむようになってくれることを望んでいる。

買い物や調理実習でのK男の様子は下記のとおりである。

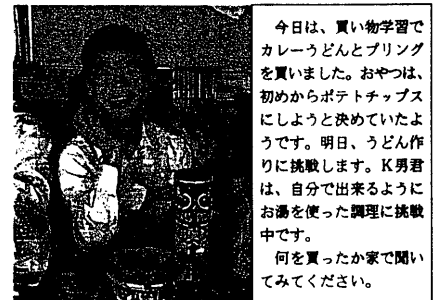
	学習活動	支援の工夫	K男の様子
買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物をする。 ○買う物を決める。 ○支払いをする。 ○お釣り、レシートをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で買いたい物を、実際の物を見て選ぶようにする。 ・お金が足りるかどうか教え、買える物を一緒に考える。 ・教師が100円、200円、300円と言うのに合わせて一枚ずつお金をレジに出すようにする。 ・お釣りやレシートをもらい、さいふに入れる様子を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行く前に、「ラーメンとポテトチップスを買います」と話していた。実際の物を見て、うどんとプリングを買うことになった。買えそうな物を教師が示し、そのなかから選んで買うことになった。買い物が終わり、レジの所でお金を払いお釣りとレシートを不器用ながらさいふに入れ、お店の人に自分からお礼を言った。K男は教室に戻ってから、買った物を見て喜んでいた。買い物の反省で、「うどんとプリングを買いました。うれしかったです」と言う。
調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんを作る。 ○小袋を切り、だしや具を入れる。 ○お湯を入れる。 ○テーブルに運ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が一工程ずつやってみせてから、K男に取り組ませたい。 ・切り込みの所を見せ、手を添えて一緒に小袋を切り、だしや具をカップに入れるようにする。 ・ポットからお湯を注ぐとき、カップを注ぎ口を持っていきゆっくりお湯を入れるようにさせ、やけどをしないよう気をつけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順を教師と確認しながら少しずつ作っていった。バックのビニルが取れず、「できません」と言ったが、取り方を説明すると自分でできた。また小袋を上手にあけられなかったので教師が手を添えて一緒に開け、具やスープ等をこぼさずに自分で入れることができた。 ・ポットからお湯を入れる時は「熱い」と言いながら楽しそうに入れていた。やや遊び半分の間があったので「やけどするよ」と言ってゆっくりお湯を入れるようにした。

9 月 の 実 践	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのために買ってきたお菓子を皿に分ける。 会食する。 片づけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中こぼさないように、おぼんにのせてゆっくり運ぶことができるよう声かけをする。 友だちと一緒に食べることを意識させながら4つのお皿に少しずつ分けることができるよう声かけをする。 楽しい雰囲気会で会食できるように感想を聞いたり、友だちの調理の試食をしたりする。教師もK男が取り組んだ様子を簡単に友だちの前で紹介し、K男の役割に気づかせたい。 食器を洗う、片づけるなど、できることを教師と一緒に考え一緒にこなすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェーターのようにゆっくり運ぶことができた。 友だちの皿に量を考えながら頑張っけていた。「〇〇君の・・・」と言いながら、皿に分けることができた。途中にお菓子を「食べていいですか」と言う。味見をしている時、「からい、からい」と言いながら、うれしそうに食べていた。 でき上がったうどんを「熱い」と言いながら、おいしそうに会食していた。友だちの作ったラーメンなどを試食して大満足であった。 教師と皿を丁寧に洗ったり、皿の片づけを返す場所を確認しながら行ったりした。最後まで、きちんと片づけることができた。
-----------------------	--	--	--

自分なりに楽しんで買い物、調理の活動をするなかでたくさんの人に関わってきた。体験のなかでたくさんの言葉のやりとりを自然に経験することができた。また、友だちとの会食をとおして、会話が弾み、仲間意識も高まってきた。このような楽しい調理活動を繰り返すなかで、ウインナーをお湯でゆでる、カップスープを作る、デザートでフルーチェを作るなど、自力でできる料理がふえてきている。

(3) 家庭との連携を意図して(写真カードの利用)

学校での1日の出来事やK男の言ったことを保護者に知ってもらうため、写真カードにして持ち帰らせた。このカードは、デジタルカメラで撮影した物をパソコンに取り込んで文をつけて印刷した物である。K男はカードを楽しみにして「カードまだですか」と話しかけてくるようになった。家庭では、「運動会の準備で、M君と〇〇を運んだの」とか、「調理実習で〇〇を作ったの」とか、写真をもとにして会話がなされるようになり、保護者にも喜ばれている。



写真カード

今日は、買い物学習でカレーうどんとプリングを買いました。おやつは、初めからポテトチップスにしよう決めていたようです。明日、うどん作りに挑戦します。K男君は、自分で出来るようにお湯を使った調理に挑戦中です。何を買ったか家で聞いてみてください。

しかし、カード作成に関わる手間や費用といった面については、改善策を考えていかなければならない。

4 考察と今後の課題

K男は、友だちとの関わりが多くなるにつれてどんどん話ができるようになってきた。学習時には自分から手を挙げたり、「〇〇です。それから〇〇」というように言葉をつけ加えて言えたりするようになってきた。また、学習で作った物を他の先生に「僕が作りました。見て下さい」と言って自分から見せに行ったり、休憩時間に友だちにお茶をもらい、「乾杯!」と言いながら楽しんで飲んでいる光景などが多く見られたりするようになった。

さらに周りの人が困っていると「〇〇してあげようか」など優しい言葉かけができるようになり、心の成長がみえた。こうした実態から、K男が少しずつ人との関わりを広げ、楽しんで生活している様子が伺える。

今後もこういった実践を重ねることで、関わりの範囲をさらに拡大し、いろいろな人に思いを伝える場を多く持つことで、楽しんで生活することにつなげたい。